

夜勤ともなれば必ず日記持参して閑のある時わ貯めた日の空白の頁を埋めたいと願うが中々に忙しくて落着かずとうとう書けず。

一月余放っておいたのわ我乍ら呆れ返るの他はなし。

先月は一週間、一週間、まことに何やかやと目に付かぬ用事あり。殊にわ柄になく洋裁をつついたので夢中になり心にもなく書かずに放っておいて了った。其のくせ書こうと思つて何度も机の上においてわみだが……

今日はいろいろと考えてみたいと思う。

昨日一昨日に比べて何と今夜の平をんな事。気味悪い位。だが油断わすまい。

静岡へ行きたい。

私わエゴイストなのだろうか。両親のことも、それから将来を約束した人の事も考えずに只自分の事ばかりで静岡へ行きたいのだ。

今朝歸ると机の上に貴方の手紙がのつてゐた。

封を切らなくてももうどんな事が書いてあるかわかつてる。でもよんでるうちに泣けて了つた。

そんなに私を苦しめないで。とわ私ばかりが云う言葉ではない。

でわ私わ静岡に行つて一体何をどうしようというのか。

だけど色々あるけど、只行きたいの。一年疎開した富士宮市、澄んだ空気と美しい自然の山々、川や野、に第二のふるさとに親しく接してみたいのだ。

結こう田舎の生活になれて了つた私が、もう最近でわ東京ほどいゝ所はない。住むのなら絶対東京と思つて居た。突然変質、心境の変化。

でも二三年先の事を考えると行くのも良いことだと思ふ。然し長い間の願望わ東京。殊に此の場所に居なくてわ達しられないのだ。

でも私わ孤獨でわない。ことにもう自分の事ばかり我儘云つてられないのに。今だに幼い望を捨てないでゐる。望みと云うよりあこがれだ。

そして美しい白衣をいつまでも身につけてゐたい。けれどいつかわ白衣を捨てなければならぬ秋がくるのだ。まるで乙女の日との別れみたいに辛いような気がする。

そして何もかもあきらめて平凡に家庭の人となるのか。

あゝ、私わ何て大それた幼稚な考えなのだろう。自分で自分が哀れになつて来る。

そして自ら招く不幸な(女として)又自分としたら本望であるその道に精進するのわ、それなら勉強しなければならぬ。

二兎を追うもの一兎をも得ず。

一体、私わどうしたら一番しあわせになれるのだろう。一方を考えると、十年計画で三十四、その頃になれば後悔するにきまつてるんだけど。今は其の道えの情熱で胸は一杯だ。

まだ見ぬ人えのあこがれ

あれとこれと、ぐずぐずして、結局考えてばかりゐて思ふ事の一つも出来ないのが私の悪いくせ。